

今立川水系河川整備計画

平成20年7月

岡山県

目 次

1 流域の概要と河川の現状と課題	
1.1 流域の概要-----	1
1.2 河川の現状と課題-----	4
1.2.1 治水の現状と課題-----	4
1.2.2 利水の現状と課題-----	5
1.2.3 河川環境の現状と課題-----	6
2 河川整備計画の目標に関する事項	
2.1 整備計画の対象区間及び期間-----	8
2.2 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項-----	8
2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項-----	8
2.4 河川環境の整備と保全に関する事項-----	8
3 河川の整備の実施に関する事項	
3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに 当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要-----	9
3.1.1 河川工事の施行の場所-----	9
3.1.2 河川工事の目的、種類及び河川管理施設の機能の概要-----	10
3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所-----	12
3.2.1 河川の維持の目的-----	12
3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所-----	12
4 河川情報の提供及び地域や関係機関との連携に関する事項	13

1 流域の概要と河川の現状と課題

1.1 流域の概要

今立川^{いまだてかわ}はその源を岡山県笠岡市今立地先に発し、里庄町から西流する新庄川を合わせて南流し、笠岡港に注ぐ流域面積 11.5km²、河川延長 5.86km の二級河川です。

源流付近の上流域は、主にアダメロ岩や花崗岩で構成された標高 200m程度の山地であり、中・下流域は、大半が江戸時代から造成された干拓地であり、そこに主要な市街地が形成されています。そのため、上流部は、河床勾配 1/200、川幅 10m程度で山間地を緩やかに蛇行しながら南流し、中・下流部は、河床勾配 1/600、川幅 20m程度で直線的な築堤河道となっており、河口部の約 2 km は感潮区間となっています。

流域は、瀬戸内式気候区に属し、年総降水量 1,100mm 程度、年平均気温は 15 前後と温暖小雨な気候であり、夏の夕方、海風から陸風に変わるときに無風状態となる「瀬戸の夕凧」が有名です。

流域内の各市町の人口は、平成 17 年の国勢調査によると、笠岡市が 57,272 人、里庄町が 10,823 人となっており、近年では、ほぼ横ばいの傾向を示しています。

また、主要な交通網としては、流域を東西に横断する国道 2 号や山陽自動車道を中心とした道路網の他、JR 山陽新幹線及び JR 山陽本線といった鉄道網も東西に通じており、また、新庄川沿いには JR 里庄駅が位置しています。

表 - 1 今立川水系管理区間一覧表

河川名	区 間		河川延長 (km)	流域面積 (km ²)
	上流端	下流端		
今立川	右岸 笠岡市今立字堂の前 659 番地先 左岸 笠岡市園井字演井場 2249 番地先	海に至る	5.86	11.5 [*]
新庄川	右岸 浅口郡里庄町里見 2592 番地先 左岸 浅口郡里庄町里見 1108 番の 2 地先	今立川への合流点	2.48	3.3

注) * 今立川の流域面積には新庄川の流域面積を含む。

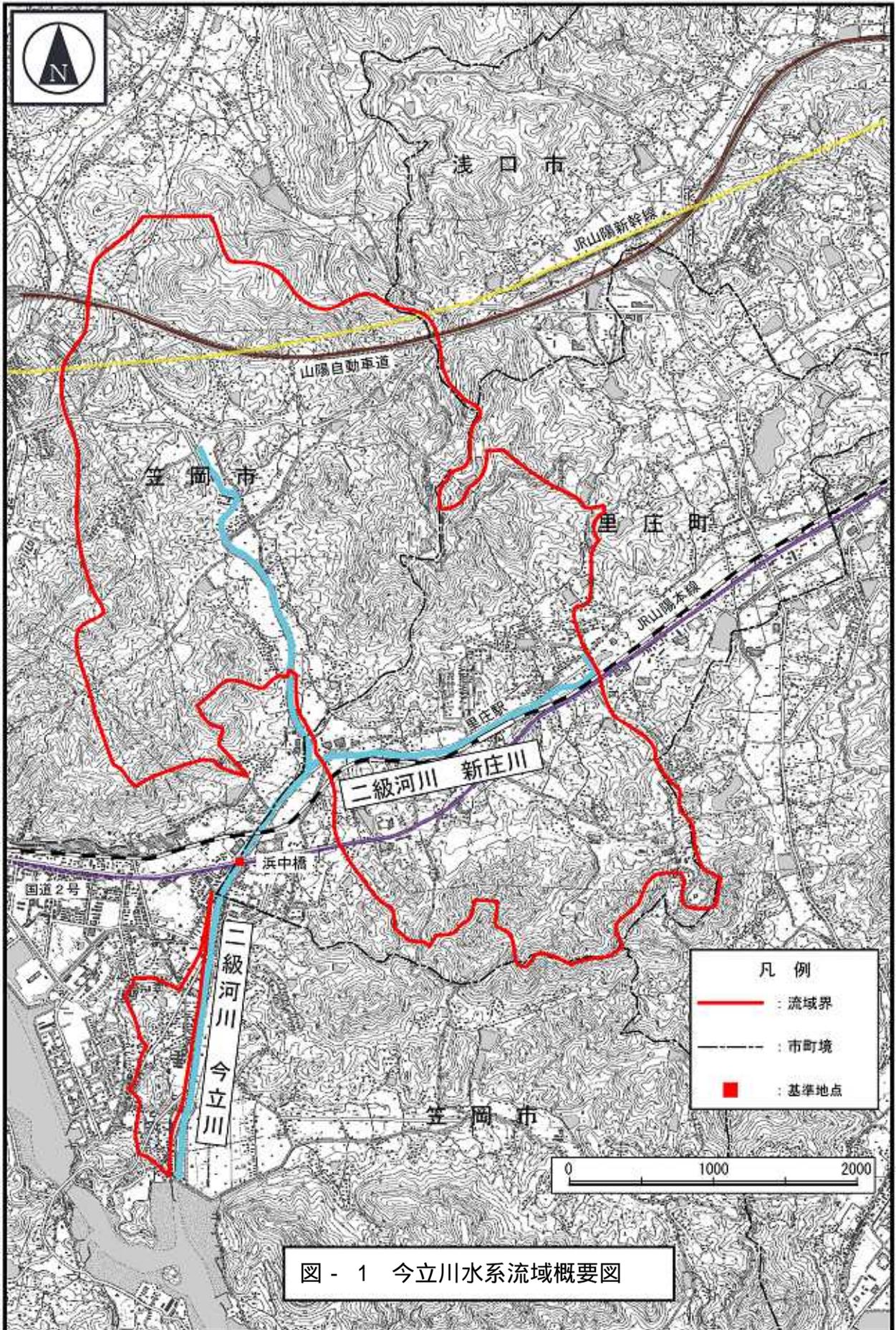


図 - 1 今立川水系流域概要図



写真 1 河口より上流方向を望む



写真 2 新庄川との合流点付近を望む

図 - 2 航空写真

1.2 河川の現状と課題

1.2.1 治水の現状と課題

今立川は、河積が小さく流下能力が不足しているため、昭和 44 年 7 月洪水、昭和 51 年 9 月洪水など、数多くの洪水に見舞われています。これらの頻発する水害に対応するため、昭和 45 年度から、築堤、河床掘削などの河川改修事業を実施しています。

事業実施により、下流部の治水安全度の向上は図られたものの、中・上流部は、依然として洪水の度にはん濫の危険にさらされ、地域住民は豪雨時に不安な生活を余儀なくされています。

そこで、中・上流部において適切な治水対策を早期に実施する必要があります。

表 - 2 近年の主要な洪水による被害状況

洪水名	発生年月日	気象要因	24 時間雨量 (mm)			浸水被害				
						面積 (ha)	全壊 流失 (世帯)	床上 (世帯)	床下 (世帯)	計 (世帯)
S44.7	昭和 44 年 6 月 20 日 ~ 7 月 14 日	梅雨前線 豪雨	7 月 7 日 9:00 ~ 8 日 9:00	笠岡	115*	198.5	2	36	186	224
S51.9	昭和 51 年 9 月 7 日 ~ 9 月 14 日	台風 17 号 と豪雨	9 月 11 日 6:00 ~ 12 日 6:00	笠岡	220	428.0	1	12	167	180
S60.6	昭和 60 年 5 月 27 日 ~ 7 月 24 日	豪雨及び 台風 6 号	6 月 24 日 18:00 ~ 25 日 18:00	笠岡	140	5.6	-	14	19	33
H9.7	平成 9 年 7 月 2 日 ~ 7 月 18 日	梅雨前線 豪雨	7 月 12 日 8:00 ~ 13 日 8:00	笠岡	87	0.05	-	1	1	2

*但し、日雨量である。

出典：水害統計

1.2.2 利水の現状と課題

利水については、耕地などへのかんがいのための取水が行われています。

西日本一帯に大きな被害が発生した平成6年渇水では、農作物への大きな被害は報告されていません。

表 - 3 慣行水利権一覧表

名 称	かんがい面積(ha)	届け出年	備 考
個 人	1.8	昭和42年	
あおかげせき 青陰堰用水	1.5	昭和42年	
合 計	3.3		

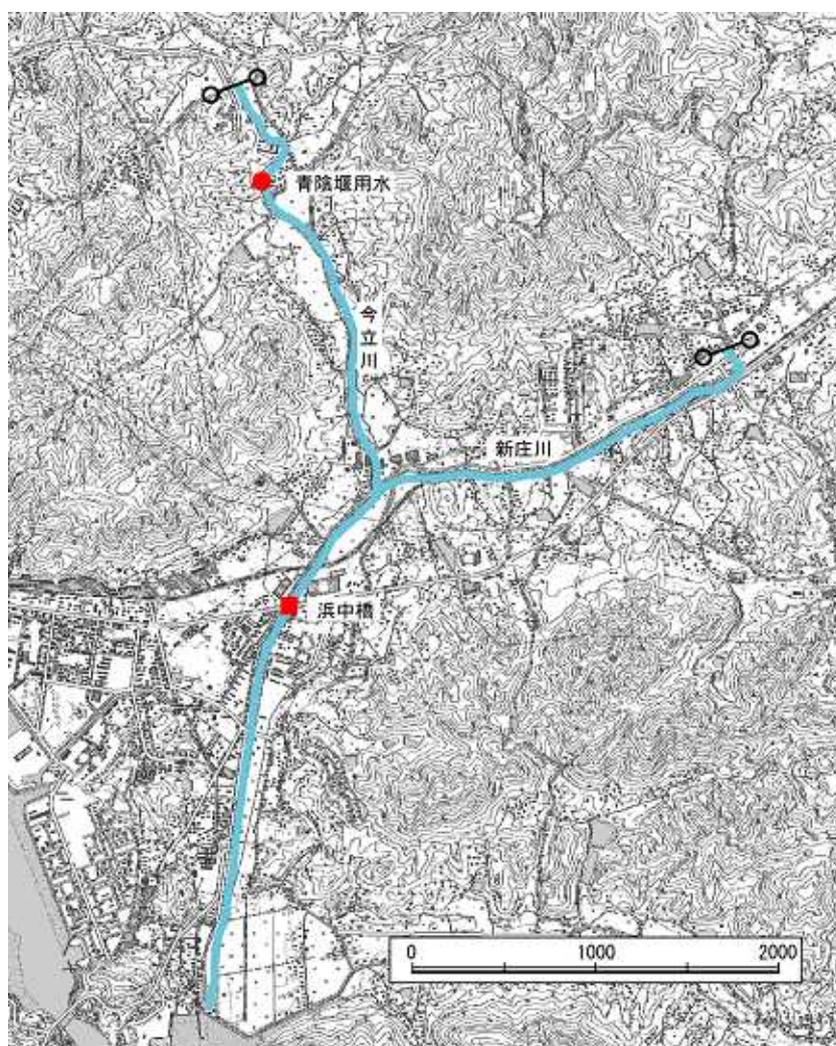


図 - 3 慣行水利権位置図

1.2.3 河川環境の現状と課題

(1) 水 質

今立川は、水質環境基準の類型指定をしていませんが、笠岡市が行った水質測定結果によると、BOD 年度平均値は 4.0mg/l 前後と良好とは言えないものの、近年の下水処理施設の整備により、水質は改善の傾向にあります。

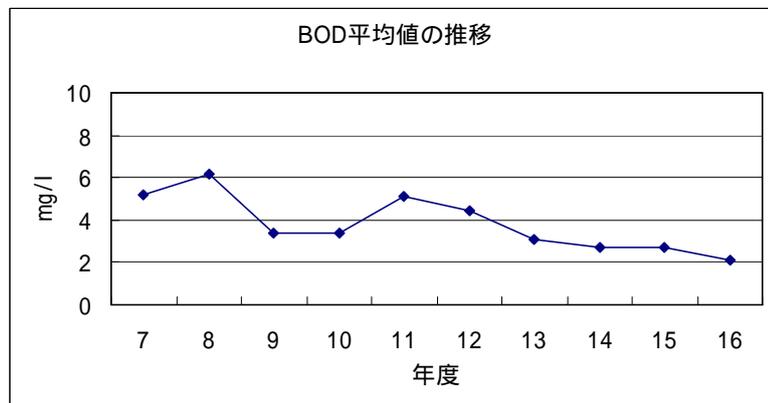


図 - 4 水質調査結果 (笠岡市)



図 - 5 水質調査位置図

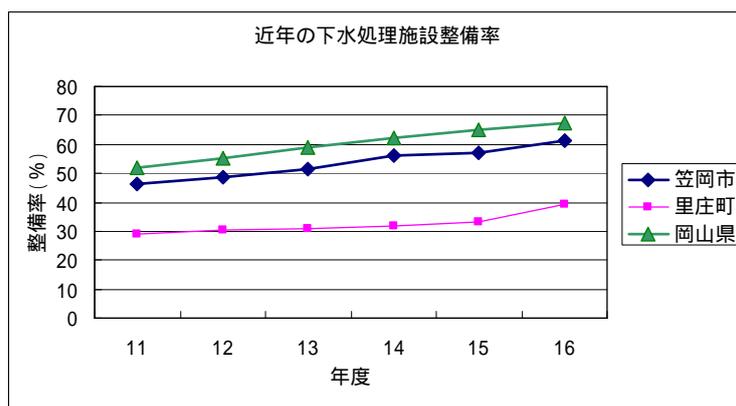


図 - 6 下水処理施設整備率 (岡山県)

(2) 動植物

流域内の植生は、コバノミツバツツジ、アカマツなどが優占しています。河道内では、ヨシ、ツルヨシなど、堤防周辺では、ヨモギ、シロツメクサなどが確認されています。

動物の生息状況は、鳥類については、河川周辺に水田が多く存在することからサギ類が多く、また、河原などを生息環境としているセキレイ類も多く見られます。

魚類は、下流の感潮区間では、エドハゼ、タビラクチ等の希少なハゼ類の生息が確認されており、それ以外の区間ではギンブナ、メダカなどが多く生息しています。

また、河口付近では、ダルマガエルの生息確認のほか、神島水道一帯にはカブトガニが生息しており、その繁殖地が国の天然記念物に指定されています。

このように付近には希少な生物の生息が確認されていることから、整備に際しては自然環境に対する配慮が必要です。

(3) 河川空間の利用

今立川、新庄川では、堤防が道路として利用されています。

(4) 歴史・文化財など

今立川沿川では、江戸時代から遠浅の地形を生かして干拓事業などが行われており、造成された平地に市街地が形成されています。

文化財としては、^{にしおおしましんでん}西大島新田、^{いりえしんでん}入江新田など今立川周辺の新田開発に大きな功績を残し、この地で没した^{とりごえしんべえ}鳥越新兵衛の墓が河口付近に設置されており、笠岡市指定史跡となっています。

2 河川整備計画の目標に関する事項

2.1 整備計画の対象区間及び期間

本整備計画は、今立川水系河川整備基本方針に基づくものであり、その計画対象期間はおおむね 30 年とします。

事業を進めるに当たっては施設整備の必要性、計画の妥当性について、流域住民の理解を求めるとともに、流域の資産、人口分布、土地利用の動向などを踏まえて、治水効果の早期発現に向けて取り組むこととします。

本整備計画の対象区間は、表 - 4 に示した法河川すべての区間です。

表 - 4 河川整備計画対象区間

河川名	対象区間
今立川	河口より 5.9km
新庄川	今立川合流点より 2.5km

2.2 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

今立川水系においては、天井河川の解消及び 50 年に 1 回程度発生する規模の洪水に対する災害の防止を図ることを整備目標とします。

2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川水の利用については、農業用水の取水が行われていますが、近年大きな渇水被害は報告されていません。引き続き、流況の把握を行うなど、動植物の保護、景観などにも配慮しながら、適正な水利用がなされるよう調査検討を行っていきます。

さらに、渇水時には関係機関、水利権者並びに流域住民と調整を図るなど、流水の正常な機能の維持に努めます。

2.4 河川環境の整備と保全に関する事項

今立川の中・上流部では、山地と農地が広がる里山的な風景を有し、良好な自然環境が残されています。今立川下流部では、沿川の市街化が進んでいるものの、河道内には動植物が生息・生育できる河川環境が残されています。

新庄川は、護岸と河床をコンクリートで固めた狭小な河川であり、豊かな河川環境とはいえませんが、通勤・通学で多数の人が利用している JR 里庄駅付近の数少ない水辺空間となっています。

これらのことから、治水及び利水と整合を図りつつ、流域の自然環境、社会環境などの地域特性や地域のニーズに配慮し、流域住民のふれあいの場として整備するとともに、動植物の生息・生育環境に配慮した河川整備に努めます。

3 河川の整備の実施に関する事項

3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに

当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

3.1.1 河川工事の施行の場所

今立川水系において河川整備計画の目標を達成するために、表 - 5 に示す区間において築堤、河道掘削などの河川整備を実施します。

表 - 5 河川工事施行区間

河川名	施行区間	延長
今立川	えしばし 絵師橋付近から笠岡病院付近	2.7km
新庄川	今立川合流点から ちやばし 茶屋橋付近	2.5km

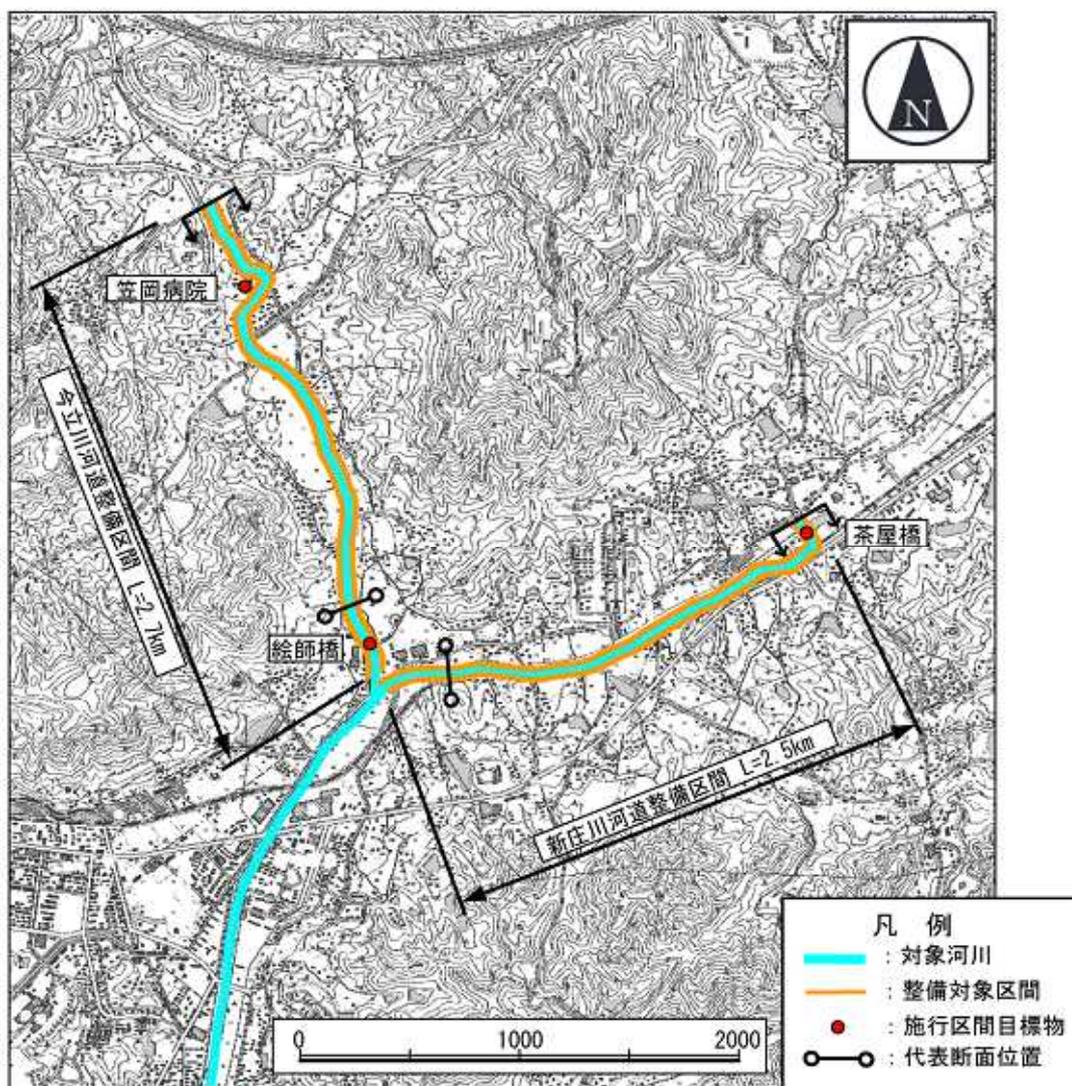


図 - 7 今立川水系河川工事施行区間

3.1.2 河川工事の目的、種類及び河川管理施設の機能の概要

今立川水系において、50年に1回程度発生する規模の洪水から、流域住民の人命や家屋などの資産を守るため、河道拡幅、河床掘削及び護岸の整備などを行います。

また、河川整備を行う際には、景観の保全及び動植物の生育・生息環境など自然環境の保全に配慮します。

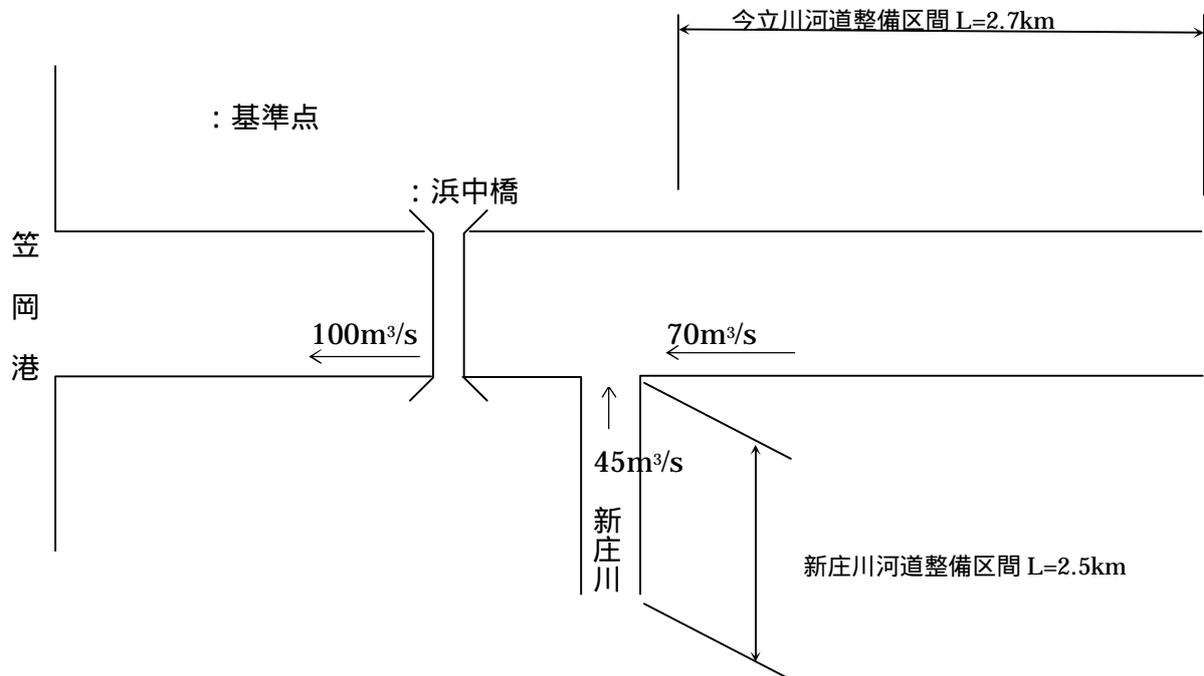


図 - 8 今立川水系計画高水流量配分図

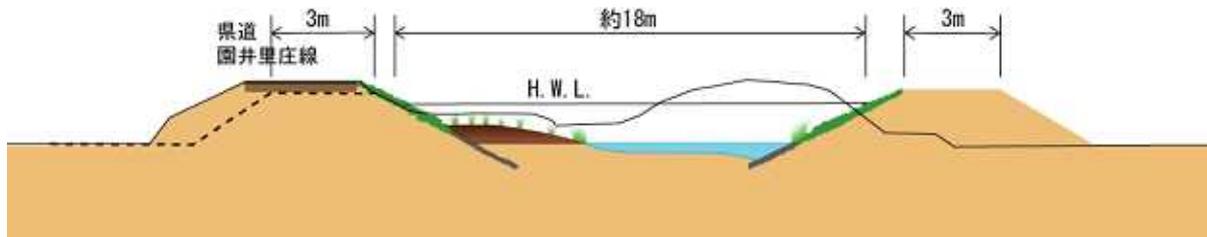


図 - 9 今立川代表断面図

注) 現地の状況などにより横断形状を変更することもあります。

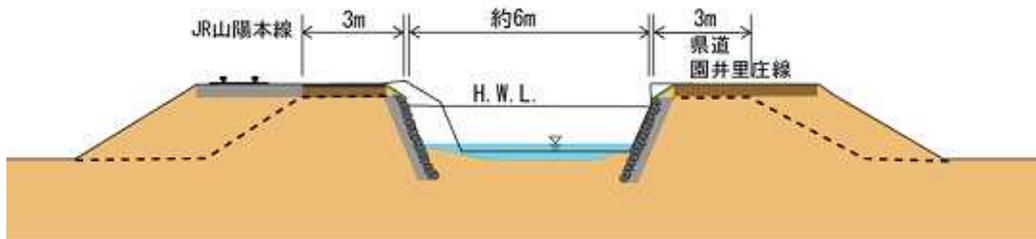


図 - 10 新庄川代表断面図

注) 現地の状況などにより横断形状を変更することもあります。

3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

3.2.1 河川の維持の目的

河川の維持管理については、河川の特長や沿川の土地利用状況を考慮し、洪水などによる災害の防止・軽減、河川の適正な利用及び河川環境の整備と保全がなされるよう、河川占有者及び関係機関と調整を図ります。

3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所

(1) 河床の維持

河床上昇及び河口閉塞など、洪水の流下の阻害となり治水上支障となる場合には、関係機関と連携して、掘削など必要な対策を講じます。また、洗掘による河床の低下は、護岸など構造物の基礎が露出するなど災害発生の要因となるため、早期発見に努め、適正な対応を行います。

(2) 護岸、堤防の維持

護岸、堤防の亀裂発生などの異常を早期に発見するため、定期的な河川巡視を行うとともに、河川管理上支障となる場合は、速やかに修繕などの必要な対策を行います。

(3) 植生の維持、清掃活動など

流水を阻害し、河川構造物に悪影響を与える樹木などについては、河川環境に配慮しながら適切な管理を行います。

4 河川情報の提供及び地域や関係機関との連携に関する事項

(1) 調査・研究などの推進

河川の水質の向上や自然環境に配慮した川づくりに関する調査・研究を行い、その成果を今後の河川整備に活かしていきます。

(2) 河川情報の提供

パンフレット配布、インターネットホームページなどにより、河川事業の紹介など河川情報の提供を行い、河川事業に関して広く理解を得られるように努めます。

災害による被害を軽減するため、岡山情報ハイウェイを活用した防災情報システムなどにより、雨量や水位などの迅速な情報収集を行うとともに、市町村、関係機関や流域住民への情報提供を行います。

(3) 地域や関係機関との連携

多様化する流域住民のニーズを反映した川づくりを進めるため、河川や流域に関する様々な情報を広く提供するとともに、流域住民や関係機関と連携を強化し、良好な河川環境の整備を推進します。

治水、利水及び景観などの河川環境上の適正な河川管理を図ることに支障が生ずる場合は、関係機関と連携して対応します。

適正な河川管理を行うため、管理上影響を及ぼす開発行為については、必要に応じて流出抑制対策の実施を事業者に指導します。

許可工作物の新設や改築に当たっては、施設管理者に対して治水上の影響だけでなく、環境の保全にも十分配慮するよう指導します。

洪水時には、河川管理者及び関係機関の連携のもと、適切な水防活動が行われるよう指導・支援するとともに、流域住民に対し水防に関する啓発活動を行っていきます。

「おかやまアダプト」推進事業を通じて、河川愛護活動に対し支援を行うとともに、流域住民と連携した河川の環境づくりに努めます。